

### 端野の寺院と教会・神社(その3)

#### 神社

##### ○端野神社

端野神社は、明治三三(一九〇〇)年八月、屯田歩兵第四大隊第一中隊の守護神として神社を創立すべく、屯田兵有志により、錬兵場の西北側の公有地に仮宮を建立したのが端野神社の始まりです。

同年九月、天照皇大神の御身分を伊勢神宮から拝受し(御神体を拝受するため屯田兵の代表が伊勢神宮まで出かけたとも伝えられています)、御神体の到着を待つて九月十五日奉還鎮座祭が行われました。

この仮宮は、二区東一六号線(現 国道三三三三号)道路から入る北参道が設けられ、境内地九五〇坪のささやかな社でした。

大正六(一九一七)年七月、宮大工、伊藤政五郎氏(三区屯田兵)の手によって新しい本殿(二・六坪)、拝殿(一〇・一六坪)が新築造営されました。大正一一(一九二二)年七月、一村一社の村社として端野神社創立の気運が高まり、翌一二(一九二二)年七月、社殿を約五〇メートルほど北側に移し、参道も中央道路(現 国道三九号線)から入る南参道に変更しました。大正一四(一九二五)年、氏子連盟を以て神社創立の申請をし、昭和二(一九二七)年四月一日、内務大臣から公認の無資格神社として許可されました。国家神道護持の時代の昭和一一(一九三七)年一〇月、村社昇格のため社殿(三八・五坪)を新築し、参道の植樹、灯籠設置工事など境内の整備を行いました。

昭和一五(一九四〇)年、村社昇格を申請し、同一七(一九四二)年七月、村社に列せられる旨告示されました。

以来、全村民を氏子とする村社創立となり、村から毎年、幣帛料が奉納され、春秋の祭典のほか、戦時中は必勝祈願、出征兵士の武運長久祈願も頻繁に行われました。

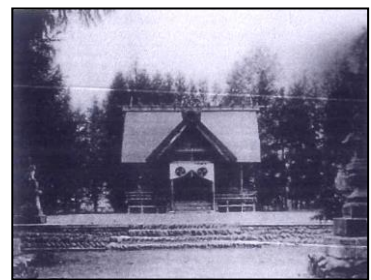
戦後は、国家神道の社格廃止と共に神社本庁に属する宗教法人となり、昭和二八(一九五三)年二月一六日、端野神社として北海道知事の認証を受け現在に至っています。

年中行事としては歳旦祭(一月一日)、春祭り豊穰祈願祭(六月一日)、秋まつり例大祭(九月一日)、新嘗祭(十一月三日)が執り行われています。

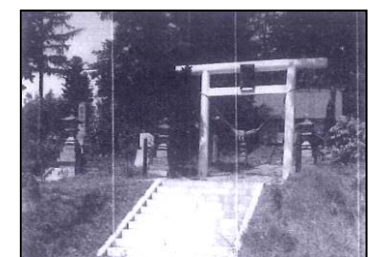
なお、現在の秋まつりには、端野町開基一〇〇年の記念すべき年にあたる平成八(一九九六)年度から、神輿を担ぐ会「飛竜陸会」により端野全地区を巡回する神輿渡御が行われ、また、これまで行われてきた「子ども相撲」に代わり、「子ども神輿」も奉納されています。

なお、端野神社の歴代の宮司は次の方々です。(敬称を略します)

代行	今福 彦次郎 (屯田兵家族、端野小学校教諭)
初代	山田 義勝 明治三五年〜大正三年
二代	照井 幸助 昭和二年五月二九日〜昭和五年五月六日
三代	堀澤 久穂 昭和六年五月〜昭和八年三月三十一日
四代	堀澤 嗣興 昭和八年八月三〇日〜平成七年三月四日
五代	堀澤 雅明 平成七年三月五日〜平成二二年三月三十一日
	平成二二年四月一日〜現在



端野神社



緋牛内神社

##### ○緋牛内神社

大正二(一九一三)年、緋牛内地区の有志により集落鎮守の神様を祀ろうと一本の標木に「天照皇大神」の銘を記し、現在の緋牛内神社の位置に祠を建て、六月一五日の春祭りに祭祠行事をしたのが緋牛内神社の起源です。

神社用地は、畑作次郎氏が国有未開地払下げを受ける際、それまで祠の境内地であった土地八反五畝二六歩を併せて出願し、神社用地として寄進されました。

大正五(一九一六)年九月に本殿を建立、同一四(一九二五)年、拝殿を新築し、この年の九月五日の秋祭りに盛大な落成式を行いました。

現在の社殿は、昭和五三(一九七八)年一月二三日、緋牛内部落開基八〇周年記念事業として新築されたものです。

宮司は、大正末期から瀨瀬徳次郎氏(屯田兵、大正一〇年に緋牛内に移住)が務めました。

昭和六三(一九八八)年に瀨瀬氏が亡くなられた後は、笹木今朝美氏が継続され、春秋の祭事と祭祠行事の世話役を担当されました。

平成三(一九九一)年以降は、氏子全員の奉仕により護持されています。

## 〇一区神社

明治三六（一九〇三）年三月、屯田兵の現役解除に伴い、軍政の監督から解放された一区の方々には、自立し、この地に永住するに当たり、心のよりどころとして、また、地区の平和と繁栄を願って神社の創立を決めました。

明治三七（一九〇四）年、二区にあった屯田歩兵第一中隊本部の被服糧秣庫（りようまっく）の払下げを受け、一区の公用地にこの建物を移して拝殿とし、その背後の本殿を新築しました。

同年の六月七日の屯田兵入地（端野兵村に初めて屯田兵が入地したのが明治三〇年六月七日）記念日に、天照皇大神を拝載し、地区を挙げ遷座式を行いました。

明治三九（一九〇六）年には豊穰の秋を迎え、九月一七日に第一回奉納競馬会が一区神社周辺の特設馬場で行われました。当日の端野尋常高等小学校の「日誌」に、「本日一区二於テ競馬ノ催アリタル為、同方面ノ児童甚ダ少シ、各学級共二、三名止マリ故二正午限りニテ出席者ヲ帰宅セシメタリ」と記しており、地区を挙げての盛大な競馬会であったことが伺えます。この競馬会は大正五年頃まで秋祭りの恒例行事として行われていました。また大正末期には拝殿を利用して青年会や処女会による演芸会が開催されました。

この一区神社拝殿は、平成四（一九九二）年二月七日、端野町有形文化財に指定され、一区地区では屯田歩兵第一中隊本部被服糧秣庫保存会を組織し、保存に努めています。

なお、年中行事として春秋の例祭に神職を招き行っているほか、歳旦祭も行われています。

## 〇三区神社

屯田兵の兵役解除となったとき、端野には第一中隊の鎮守として二区に端野神社が置かれていました。

しかし、一区地区と三区地区には神社がなかったの、両地区ではそれぞれの地区で氏神を祀り神社を創建することとなりました。

三区では、明治三六（一九〇三）年八月、二番通り（東一二号線）の裏山の地区が一望できる小高い丘に三区神社を創建しました。境内地は公有地を借受け、高床の神殿を建立しました。これが現存する本殿です。

大正七（一九一八）年、氏子の寄付及び奉仕によって拝殿を建設し、六月一五日の春祭りに盛大な落成式を行いました。

また、三区神社の神殿に三区兵村に入地した屯田兵の出身地の氏神様を記した木札五十枚が奉納されており、この木札の裏面には屯田兵家族全員の名前が記されており二五枚ずつ二つの木箱に収められています。

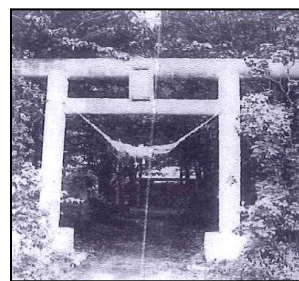
木箱の蓋には、明治三〇年屯田兵分は村口芳作、明治三一年屯田兵分は鈴木弥惣吉が世話人として名前が記されています。

この木札を奉納した由来や三区地区に入地した屯田兵は六六戸であり、なぜ五十戸なのかについて、三区出身の鷺見文男氏（元 端野町教育長）は、「三区部落に氏神様を奉納し、家内安全、地域の繁栄発展を願い、北海道移住の時、故郷から泰持してきた産地の神（生まれた土地の守り神、うぶすなと同意義）を一括収納してもらい、新しい天照皇大神の氏子として、この地の墳墓の地と定め永住する決意を示したものと推測される。また、六六戸のうち五〇戸については、残る一六戸が神と無縁であったのか、それとも明治三六年三月に屯田兵制が廃止となり、自由の身となって他に転出したものが居たかも知れない」と、「三区ふるさと史年表、資料編」に記されています。

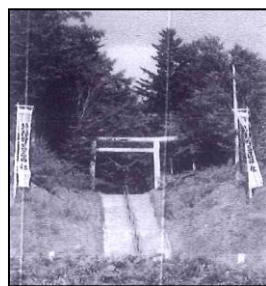
また、三区神社の護持については、創建以来三区部落（連合自治会）が行ってきましたが、諸般の事情により、平成二七（二〇一五）年に「三区神社・屯田の森保存会」会長竹中義修氏」が発足し、

春、秋の例祭や歳旦祭を行っています。また、同年から神社境内を屯田の森として整備する事業が進められています。

さらに、永らくしめ縄づくりを指導されてきた樫尾齊氏の指導のもと、毎年、地域の方々の手により作られた立派なしめ縄が奉納されています。



一区神社



三区神社

### 参考文献

新端野町史（平成十年十月十日発行、端野町）  
端野村緋牛内六十年の歩み（昭和三十三年十二月二十日発行、  
緋牛内六十年の歩み編纂委員会）

一区部落史（昭和五十六年二月二十日発行、  
一区部落会）

三区百年史（平成十二年六月六日発行、三区連合会）  
三区ふるさと史・年表、資料編（平成二七年九月発行、三区自治連合会）